
一級建築士になる目的を 明確に持つ

— 一級建築士 —

1. はじめに～受験の動機、経緯等～

私は延べ5年の年月をかけようやく一級建築士を取得することができました。今回、本執筆の話を受けた中で、なぜこんなに時間をかけてしまったのか考えてみたところ、資格を取得する目的が曖昧だったことが原因のように思われます。大学生の頃よりなんとなく資格を取得することは考えていましたが、就職し一級建築士の受験要件が揃った時点では急いで取得する必要があまりなく、取得しておけば将来携わりたい業務に有効かもしれない程度の曖昧な目的で受験しました。目的が曖昧だったことから、4年目までは学科試験で不合格となり、このままでは良くないと思い立った5年目ようやく資格を取得することができました。学科試験の突破に不要な時間を要しているため、あまり参考にはならないかもしれませんが、数ある体験談の一つとして読んでいただけると幸いです。

2. 学科試験対策

学科試験については、資格の取得を急いでいなかったことと、きちんと時間をかけて量をこなせば十分合格できるという根拠のない自信から、資格学校へは通わず独学で行うことを選択しました。なお、4年目までは試験の数か月前から特に計画も立てず得意分野を中心に過去問を解く程度だったため、当然の結果ではありますが不合格となりました。

5年目は前年の11月頃より計画的に試験対策を行いました。それまでの受験の経験上、過去問をすべて理解することを目標に対策を進めることが良い

のではないかと考え、過去問を解き、解答を確認した直後に再度同じ問題を解き、なぜこの選択肢が回答となるのか理解することを徹底しました。また、間違えることが多い問題はマーキングをして重点的に見返しを行いました。特に苦手だった建築法規に関しては、法令集を丁寧に確認し、解答を得るために確認する場所を覚えることを習慣としました。

過去問を中心として学習していたことから、新傾向の問題については不安が残りましたが、実際には建築計画を除く分野について新傾向の問題があったとしてもあまり過去問との内容に差はなかったため、過去問中心の勉強方法で支障はなかったように感じられました。ただし、建築計画の事例問題等については過去問の知識では対処できないことがあるため、日常的に新しい公共建築や事業、制度改正の情報を得ておくことも大切です。

3. 製図試験対策

製図試験の対策に必要となることとしては作図とエスキスの2つが挙げられます。私はまず作図能力を身に着けるとことを目標とし、作図の練習にあたっては特別な知識は必要なく、資格学校へ通うことに比べ通学時間が省ける利点から独学の方が効率的であると判断し、資格学校へ通うのは後半1ヶ月のみの短期コースを選択しました。

作図練習を始めるに当たり、専門学校のガイダンス等から入手できるガイドブックにて作図の手順について学ぶことができたため、何をしたら良いかわからないということはありませんでした。しかし、

慣れない作図作業に対してあまり積極的に向き合えなかったため、目標とした作図枚数には到底届かなかったことから、普通に専門学校に通っていた方が効率的であったように感じられます。作図に要する時間は3時間が目安とよく言われますが、私は細かい部分をフリーハンドで書くことを学び、ようやくこの時間内に完成できるようになりました。

エスキスについては添削を受けないことには善し悪しの判断ができなかったため、専門学校に通った後半が中心となりました。数をこなし経験を積むことが重要と考え、問題に対する正解は1つではないことから、一度解いた問題についても再度別パターンで計画することを行いました。また、専門学校では、試験内容の発表後、次第に問題内容の精査が進み、試験が近づくとつれ市販の参考書には載っていない規定や知識に触れる機会が増えたため、情報収集の観点からも専門学校に通ったことは有効であったように思います。

4. おわりに

一級建築士の取得は年々難しくなっており、どんなに準備していても本番で予想外の事態に見舞われるかもしれません。実際の試験でも、得意科目の建築計画で初見の問題が多く手ごたえが全くなかった、作図中に大幅な時間不足が発覚したといったことか



下関市 建設部 住宅政策課
主任技師

なかやま てるき
中山 輝樹

(取得した資格：一級建築士)
(資格取得年度：平成30年度)

ら、早々に投げ出しそうになりましたが、最後まであきらめずに丁寧に取り組んだことが功を奏したように思えます。

一級建築士試験に合格するためには、最短でも1年近くの期間を要することから、モチベーションの維持ができるかどうか重要です。受験にあたっては、職場の上司に言われたからといった受動的な理由ではなく、なぜこの資格を取りたいのか、この資格を取って何をしたいのか等、明確な目的をもって臨むことをお勧めします。

最後になりましたが、試験前の休暇等に協力をして頂いた職場の方々、一緒に試験に臨んだ同僚にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。